

お 祝 い

六地学園が創立 50 周年を迎えられたことを、心よりお祝い申し上げます。

学園の子供達に私が出会う機会は、主に青年会主催で行うおちばへの徒歩団参であり、参加してくれるようになってもう数年が経ちます。ここで出会う顔は皆生き生きと明るく、いつも元気におちばまで歩を通してくれます。この姿を思い出すとき、日々心を配り育てられる関係者の方に頭が下がるのであります。

言う迄もなく、天理教の目指す陽気ぐらしは、その場限りの楽しさや自分だけの幸せを求めるものではありません。

おさしづに

神が連れて通る陽気とめんめん勝手の陽気とある。

勝手の陽気は通るに通れん。陽気というのはみんな勇ましてこそ真の陽気という。めんめん楽しんで後々の者苦しますようなことでは本当の陽気とは言えん。めんめん勝手の陽気は生涯通れると思うたら違うで。と諭して下さるように、因縁の自覚の上になつたんのうの心を治め、ひのきしんに励み、御恩報じと人だすけを実践する中に得られる喜びの境地であります。

そのためにはまず、親神様を信じ、教え通りに行動することが基本です。

当学園のような施設の場合、社会的責任を有し、運営を成立させて、子供達を常識ある社会人に育て上げるといった一面が大切である訳ですが、もっと根本的な、忘れてはならないあり方が、ここはおたすけの場であり、魂の救済に努め、真の陽気ぐらしを目指すということでもあります。

この道は天理教を信じる人だけに当てはまる教えではなく、全人類が親神様の懐の中に住み、天の理（摂理）に従って生きているのであり、ただ、知っているか、未だ知らないかの違いしかないのです。

この事実をわきまえ、自信をもって、この道の教えを以て子供達を救い、育て上げて頂きたいと願います。

責任者はもとより、若い人も多であろう全ての関係者の方が、この根本の精神に立って、各々の役割を果たされるとき、必ず親神様の大きな御守護を頂けるのであります。これが一手一つの働きであります。

元紀北分教会という尊い名称の理を戴かれた皆様がこの学園の上からも陽気ぐらしを実現していかれることを切に願いお祝いの辞と致します。